

(4) エリア別取組みの方向性

エリアの現状やニーズ調査等の結果等を踏まえ、SWOT 分析の手法を用い、内部環境の「強み」「弱み」、外部環境の「機会」「脅威」について整理を行うとともに、クロス分析により各機能に対し戦略を立て、東部及び中部エリアの取組みの方向性を設定します。

※西部エリアは、築港・天保山まちづくり計画（平成 30 年 3 月策定）で設定

○東部エリア

		外部環境		
		○ 機会	⊖ 脅威	
<p>※SWOT 分析とは 内部環境：「強み (Strength)」「弱み (Weakness)」、 外部環境：「機会 (Opportunity)」「脅威 (Threat)」 という 4 つの視点から、自らが置かれている環境を整理し、戦略を検討していくための分析方法</p>		<ul style="list-style-type: none"> 大阪万博が決定し湾岸部の注目度が高まっている。 インバウンドなどによる来訪者が増加 都心への人口回帰の傾向が強まっている 待機児童の解消や児童虐待の撲滅など子育て環境を確保したまちづくりの要請が強まっている 	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ大地震による津波や台風による高潮被害のリスクがある。 日本全体が人口減少下にあり、地域間の競合が激しくなっている。 梅田や難波などの都心部の開発が進行し、湾岸部の集客性が相対的に弱まっている。 	
内部環境	S 強み	<ul style="list-style-type: none"> 弁天町駅は JR とオオサカメトロの結節点であり、交通便利性が高く、大阪ベイタワーや大阪みなと中央病院などの都市機能が集積している 市岡商業高校跡地などの開発可能な用地がある。 各地域で特色ある取り組みがされており、良好な地域コミュニティが残っている。 	<p>【強みを活かして機会を拡大・持続する戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪ベイタワーを拠点として湾岸部の玄関口である弁天町駅周辺の都市機能のさらなる拡充を図る。 大規模開発時などに保育所や子育て層をターゲットとした施設等の整備を誘導するなど、子育て層が住みやすいまちづくりを進める。 	<p>【強みを活かして、脅威に対処する戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> 都心部へのアクセスが容易で利便性の高い立地を活かしつつ、良好な地域コミュニティをベースとしたあらゆる世代が住みやすく防災力の高いまちづくりを推進し、他エリアとの差別化を図る。
	W 弱み	<ul style="list-style-type: none"> 国道 43 号や中央大通等の幹線道路が地域を分断。 港地区復興土地区画整理事業区域外は、かさ上げ整備がされていない。 波除地域などでは、工場から住宅への転換が進み、住工混在が進行。 弁天ふ頭周辺の水辺のポテンシャルがまちづくりに活かしていない。 	<p>【弱みを克服し、機会をつかむ戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国道 43 号のバリアフリー化を推進し、地域間のつながりを強めていく。 ものづくり工場の操業と住環境の確保が両立するための取り組みを進める。 まちと海をつなぐ水上アクセスの拠点として弁天ふ頭の利活用を促進する。 	<p>【弱みと脅威を最小化する戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な基盤整備を着実に進めていく。 地域コミュニティを活かした避難訓練の継続など、災害に強いまちづくりを着実に進める。



都心と湾岸をつなぐ交通結節点としての立地を最大限に活かした都市機能の強化とにぎわい・魅力の創出を図るとともに、都市居住のもつ利便性の高さと良好な地域コミュニティをベースとした災害に強い安全・安心が確保されたまちづくりを推進する。

○中部エリア

		外部環境		
		○ 機会	⊖ 脅威	
<p>※SWOT 分析とは 内部環境：「強み (Strength) 」 「弱み (Weakness) 」 外部環境：「機会 (Opportunity) 」 「脅威 (Threat) 」 という 4 つの視点から、自らが置かれて いる環境を整理し、戦略を検討していく ための分析方法</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・大阪万博が決定し湾岸部の注目度が高まっている。 ・インバウンドなどによる来訪者が増加 ・都心への人口回帰の傾向が強まっている ・待機児童の解消や児童虐待の撲滅など子育て環境を確保したまちづくりの要請が強まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ大地震による津波や台風による高潮被害のリスクがある。 ・日本全体が人口減少下にあり、地域間の競合が激しくなっている。 ・梅田や難波などの都心部の開発が進行し、湾岸部の集客性が相対的に弱まっている。 	
内部環境	S 強み	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアの中心に八幡屋公園が立地し、地域住民の憩いと癒しの場を形成。 ・中央体育館等では国際的なスポーツ大会や大規模イベントが開催される。 ・八幡屋商店街や各地域で特色ある取り組みを通じて良好な地域コミュニティが形成されている。 ・今後、市営住宅の建替えによる余剰地の創出が見込まれる。 	<p>【強みを活かして機会を拡大・持続する戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八幡屋公園を中心として、子育て層が魅力を感じる良好な住環境の形成を促進する。 ・中央体育館等の集客力と周辺の商店街等の取組との相乗効果により、エリアの魅力を高める取り組みを推進する。 	<p>【強みを活かして、脅威に対処する戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八幡屋公園のもつ憩いの空間と良好な地域コミュニティを活かした地域防災力の向上とあらゆる世代が住みやすいまちづくりを推進し、他エリアとの差別化を図る
	W 弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域と比べて人口の減少が進行し、空家や空店舗が目立つ状況となっている。 ・空地や三十間堀入堀部などの低未利用地が増加している。 	<p>【弱みを克服し、機会をつかむ戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低未利用地の活用を推進し、特に子育て層の増加に資するまちづくりを推進する。 	<p>【弱みと脅威を最小化する戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な基盤整備を着実に進めていく。 ・地域コミュニティを活かした避難訓練の継続など、災害に強いまちづくりを着実に進める。

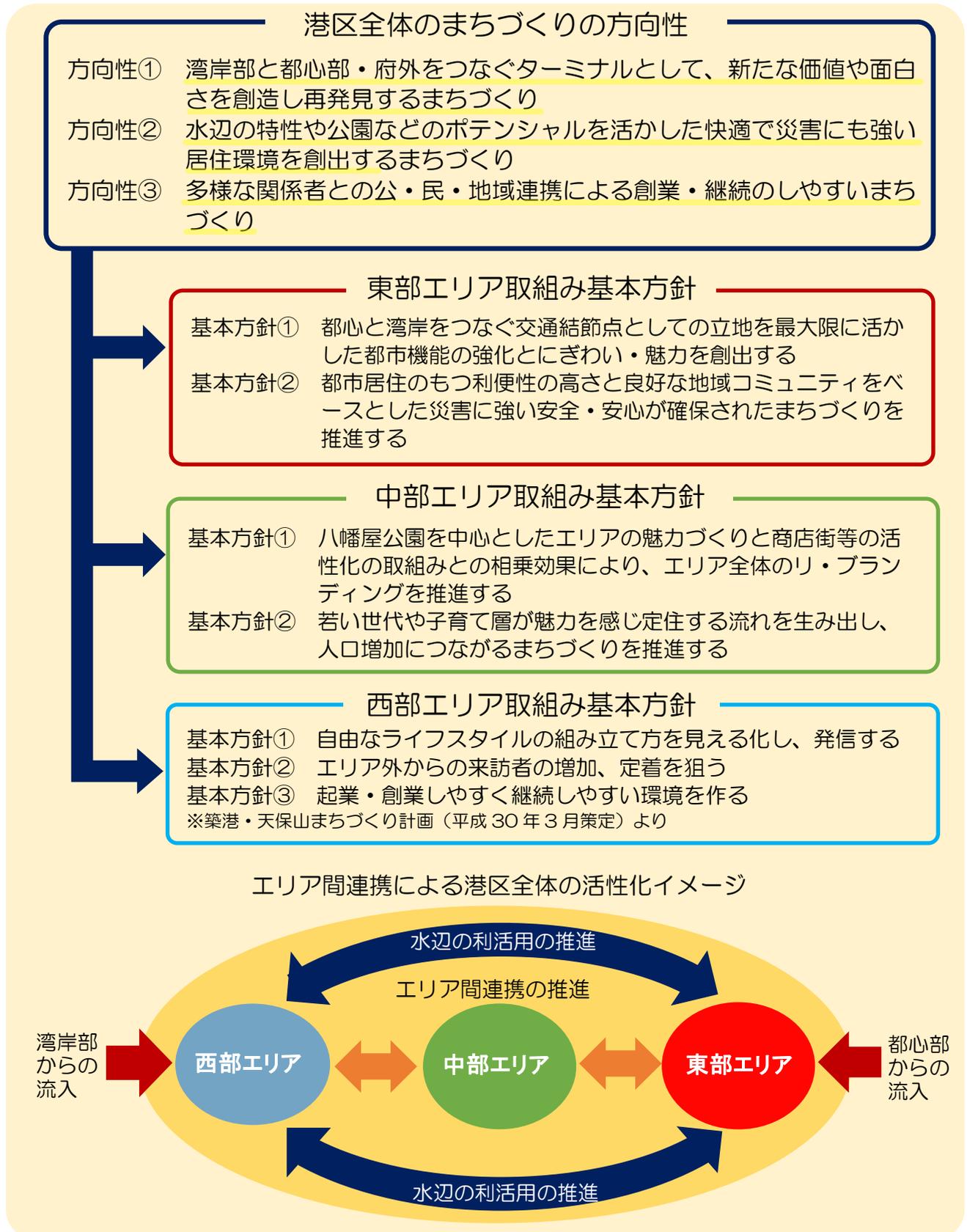


八幡屋公園を中心としたエリアの魅力づくりと良好な地域コミュニティをベースとした商店街等の活性化の取組みとの相乗効果により、エリア全体の「リ・ブランディング」*を進め、特に若い世代や子育て層が魅力を感じ定住する流れを生み出し、人口増加につながるまちづくりを推進する。

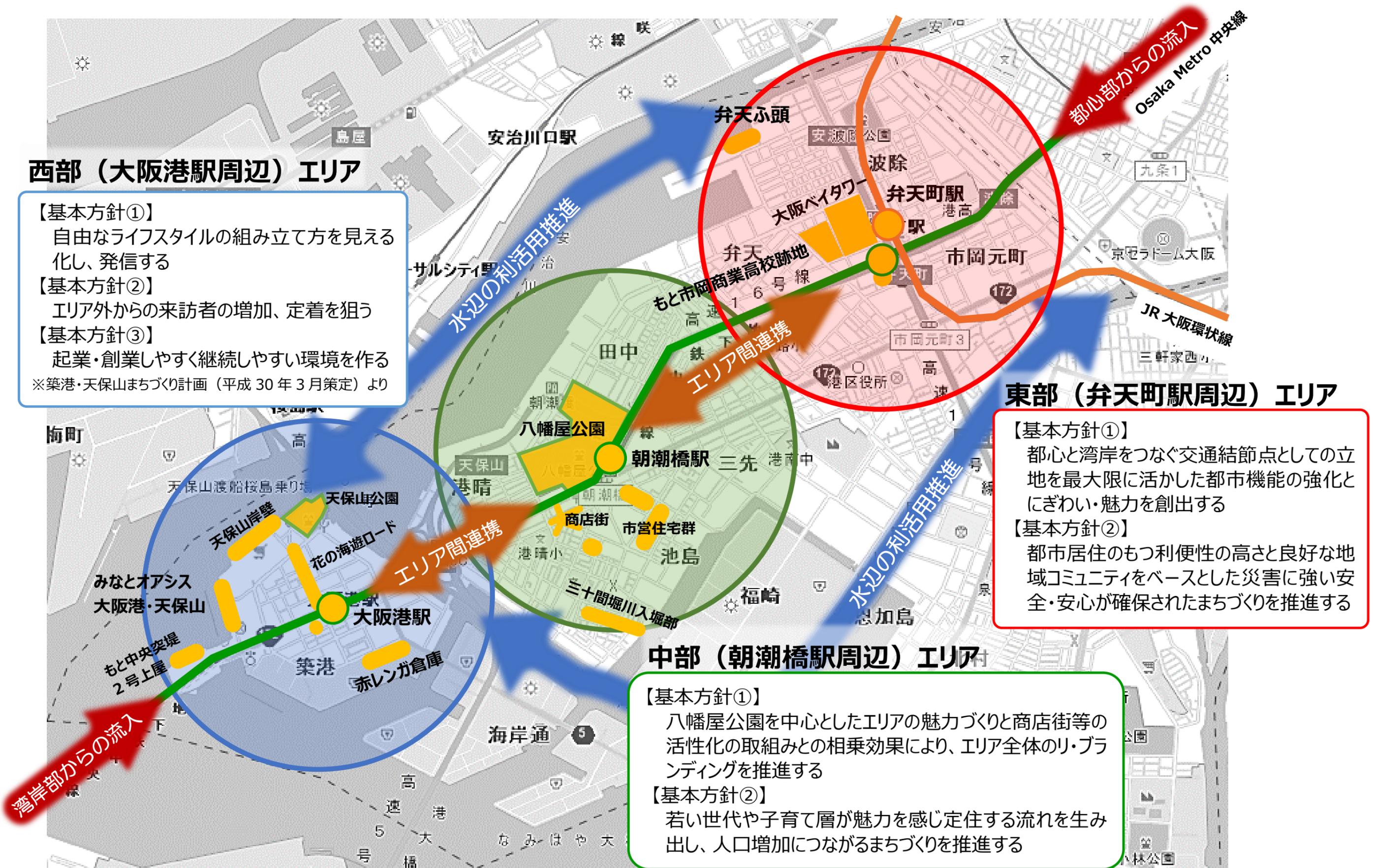
※今ある地域資源等を活かしながら、新しい時代や区民ニーズに適合したまちへと再構築することにより、魅力をさらに高めること

(5) エリア別取組みの基本方針

- 港区全体のまちづくりの方向性及び SWOT 分析により導かれたエリア別取組みの方向性を踏まえて、各エリアの取組みの基本方針を次のとおり設定し、エリアごとの具体的な取組みにつなげるとともに、エリア間連携を推進することにより港区全体の活性化をめざします。



港区の3エリアの取組み基本方針とエリア間連携のイメージ図



西部（大阪港駅周辺）エリア

- 【基本方針①】
自由なライフスタイルの組み立て方を見える化し、発信する
 - 【基本方針②】
エリア外からの来訪者の増加、定着を狙う
 - 【基本方針③】
起業・創業しやすく継続しやすい環境を作る
- ※築港・天保山まちづくり計画（平成30年3月策定）より

東部（弁天町駅周辺）エリア

- 【基本方針①】
都心と湾岸をつなぐ交通結節点としての立地を最大限に活かした都市機能の強化とにぎわい・魅力を創出する
- 【基本方針②】
都市居住のもつ利便性の高さと良好な地域コミュニティをベースとした災害に強い安全・安心が確保されたまちづくりを推進する

中部（朝潮橋駅周辺）エリア

- 【基本方針①】
八幡屋公園を中心としたエリアの魅力づくりと商店街等の活性化の取組みとの相乗効果により、エリア全体のリ・ブランディングを推進する
- 【基本方針②】
若い世代や子育て層が魅力を感じ定住する流れを生み出し、人口増加につながるまちづくりを推進する